

いわき地区におけるシラス 3 種の割合

福島県水産試験場 海洋漁業部

部門名 水産業—資源管理—シラス

担当者 池川正人

I 新技術の解説

1 要旨

東日本大震災前において機船船びき網によるシラス漁業は、底びき網を除いた沿岸漁業のうち水揚げ金額で 4 割程度を占めており、本格操業再開が見込まれる中、シラス漁業は沿岸漁業の中で重要な位置を占めることが予想される。

シラスのうちほとんどを占めるのはカタクチイワシ仔魚であり、他魚種の混入はほとんどなかった。しかし近年、いわき地区における「農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング」のシラス検体について、マイワシないしウルメイワシの仔魚の混入がみられるようになったため、今回 3 種の出現割合を整理した。2013 年 4 月～12 月についてはカタクチイワシとマイワシの個体数比、2014 年 1 月～2017 年 3 月についてはウルメイワシも含めた重量比を求めた。

その結果、カタクチイワシはほぼ通年、マイワシは主に春季、ウルメイワシは主に秋季にみられることが明らかとなった。しかし 2017 年は 1 月からマイワシの混入がみられ、割合も高めに推移していた。

(1)マイワシは 2013～2016 年において春季に混入がみられ、その割合は最大でも 2 割程度であった。しかし、2017 年は 1 月から混入がみられ、2 月は 6 割以上を占めていた(図 2)。

(2)ウルメイワシは 2014～2015 年において主に秋季に混入がみられ、その割合は最大で 2%であった。2016 年も秋季に混入がみられ、2017 年 3 月まで続いた(図 2)。

2 期待される効果

3 種の発生時期はそれぞれ異なることから、資源変動等で発生状況が変化した場合、機船船びき網の操業時期に影響を与えることが考えられる。引き続きデータを積み重ねることで、発生割合と漁況との関係を明らかにできる。

3 適用範囲

研究機関、漁業関係者

4 普及上の留意点

特になし。

II 具体的データ等

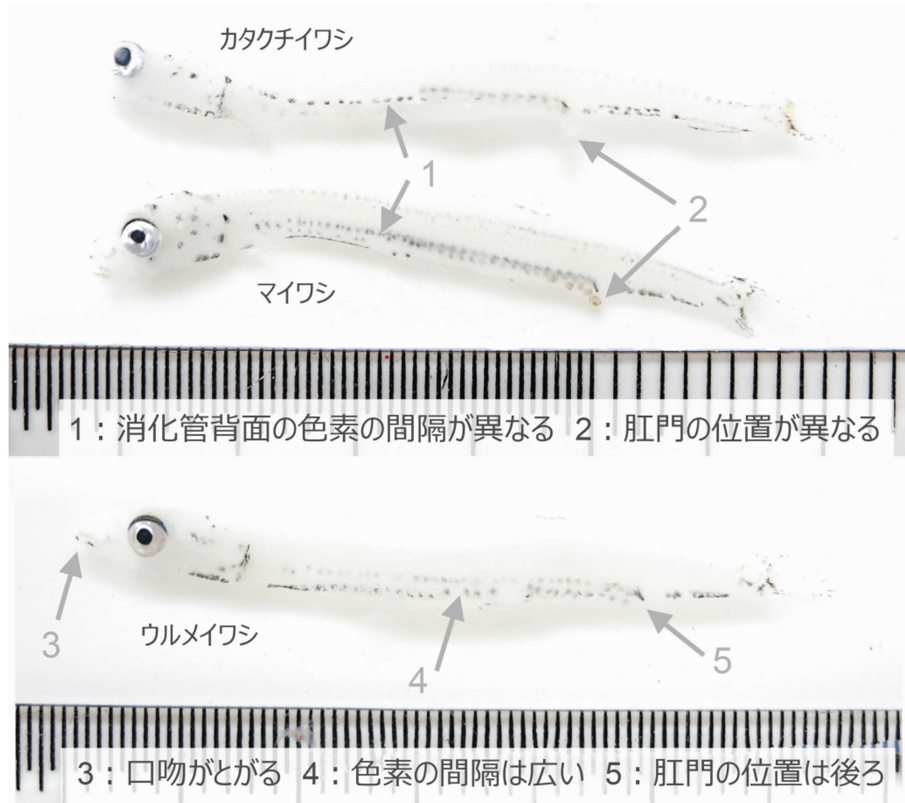


図1 シラス3種(カタクチイワシ、マイワシ、ウルメイワシ)の相違点

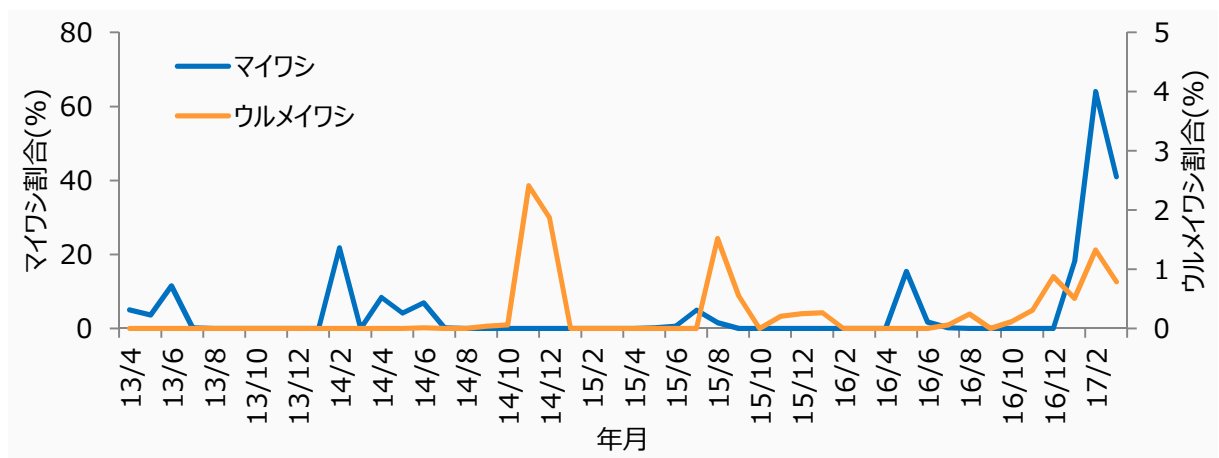


図2 マイワシ、ウルメイワシの出現割合

III その他

1 執筆者 池川正人

2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成 25 年度～29 年度

(2) 研究課題名 沿岸性浮魚の漁場形成予測技術の開発

3 主な参考文献・資料

なし